



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人：湯浅一郎 / 住所：〒223-0062 横浜市港北区日吉本町 1-30-27-4 日吉グリーン1F
TEL：045-563-5101/FAX：045-563-9907/E-mail：office@peacedepot.org
郵便振替：00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座：横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.27

2010.12.15

2010年を振り返って

このような時だからこそ 北東アジア非核兵器地帯支持の声を

着実に広がる 議員・自治体・NGOからの 支持と連携

湯浅 一郎 (ピースデポ代表)



「平和の輪をひろげる湘南・江の島会議」
パネルディスカッションにコーディネーターとして
参加(10年11月27日・かながわ女性センター)

緊迫する北東アジア情勢の中で

2010年は、「核兵器のない世界」へ向けて大きな節目となる年でした。5年ごとのNPT再検討会議では、2000年合意の内容を再確認し、国際人道法の遵守や、核兵器禁止条約に留意するという文言が最終文書に入る成果がありました。しかし米国を初め、核保有国は、核ゼロへの期限付きのロードマップを描くことに強く抵抗し、軍産複合体が社会に浸透した現実の壁の厚さを思い知らされました。

他方で、北東アジアにおいては軍事緊張が噴出し、冷戦構造が未だに残っている有り様を改めて浮き彫りにしました。3月、韓国哨戒艦「チョナン」沈没事件、9月、尖閣諸島周辺での中国漁船の拿捕事件、そして11月、ヨンピョンド砲撃事態と断続的に大きな出来事が起こりました。特に、ヨンピョンド事態は、民間人の被害者を産みだし、その後の展開によっては、相互の攻撃がとめどなく広がりがねない要素をはらんでいますし、まだ予断は許せません。

これらの出来事は、朝鮮半島が38度線によって南北に分断されたままであることに要因があります。特に、海上については、軍事境界線すら合意されていないのです。北方限界線(NLL)は、国連軍側が主張するものです。北朝鮮は、これを認めておらず、そのかなり南方に別の軍事境界線を宣言しています。そのはざまにヨンピョンドを含め5つの島があり、韓国市民が居住し、インチョンからフェリーが行き来している。このあいまいな状況を一刻も早く解消する何らかの国際的な交渉を進め、停戦協定を完全に遵守することを確認しあうべ

きです。いずれにしろ、軍事力によって平和を担保するという思想では、安全保障ジレンマとも言うべき状況が継続し、軍事緊張や軍拡の悪循環から抜け出せる要素はありません。

広がる北東アジア非核兵器地帯を支持する声

こうした時であればこそ、軍事力によらない安全保障体制のあり方を、具体的にかつ冷静に追及することが必要です。その最初の大きなステップとして、北東アジア非核兵器地帯を求める市民社会の世論をより大きくしていく努力がますます重要になっています。そうした観点から、この1年をふりかえってみます。

09年から始まった日韓国議員の連携は、継続され、広がりました。2月、ピースデポの第11回総会記念シンポとしてPNND日本・韓国の共催で日韓議員フォーラムが東京で開催され、韓国からの4人の議員を含め、初めてとも言える日韓議員の超党派的な会議が開催されました。4月29日には、93名の日韓議員の連名で、北東アジアの非核化のための日韓議員共同声明が、NPT再検討会議の直前にニューヨークで開かれた非核兵器地帯署名国会議の機会に発表されました。これに賛同する議員の拡大努力は、その後も続いています。

自治体への広がりも同時に追求されました。5月、NPT再検討会議に日本非核宣言自治体協議会が初めて代表団を派遣し、田上長崎市長に加え、副会長として海老根藤沢市長、竹内枚方市長も参加し、私たち日韓NGO主催のワークショップにも全員で参加し、アピールしていただいた。これを契機にピー

ステポは、11月、藤沢市制70周年事業としての「平和の輪を広げる湘南・江の島会議」に全面協力しました。

自治体首長の北東アジア非核兵器地帯を支持する国際署名への賛同の拡大も同時に進め、当初、広島・長崎市長だけであったものが、那覇市、廿日市市、枚方市、焼津市、藤沢市、川崎市の6市長が加わったことは非常に心強いことです。近く非核協の全会員に向けて、賛同を求めていく予定です。

NGOの取組みでは、11月16日～18日、軍事費削減と北東アジアの非核化をテーマに、ソウルで開催された「アジア太平洋平和・軍縮のための国際ワークショップ」に私が参加し、「北東アジア非核兵器地帯への市民戦略」と題して報告をしました。

北東アジア非核兵器地帯に関して、いち早く「3+3」構想を提起し、2004年にモデル条約を発表してきたピースデポの取り組みは、ここ数年、国会議員、自治体首長にも広がり始め、市民社会における世論形成は着実に前進しています。当面の目標は、2010NPT再検討会議での一定の成果を前提に、包括的アプローチとして北東アジア地域の非核化を通したグローバルな核兵器ゼロへの寄与をめざすことです。2011年は、賛同署名の広がりを踏まえ、一刻も早く日本政府が、北東アジ



「平和の輪をひろげる湘南・江の島会議」パネルディスカッション。
左から：田上富久長崎市長、秋葉忠利広島市長、竹内脩枚方市長、小笠原公子ピースデポ理事（フェリス学院大学ボランティアセンター）、海老根靖典藤沢市長
(10年11月27日・かながわ女性センター)

ア非核兵器地帯条約を提唱するよう働きかけ、次の2015年に向けてスタートを切る年にせねばなりません。

近く策定される新「防衛大綱」には、基盤的防衛力構想の放棄や潜水艦の増強など多くの問題がありそうですが、「北東アジア地域の非核化を目指す」という文言が入る可能性が期待されます。もし入れば、これを活かす取り組みを迫るべきです。今こそ、北東アジア非核兵器地帯を求める幅広い世論を形成し、政府への働きかけを強めていくことを会員の皆さんとともに確認し、前に進んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。☐

セミナー、シンポジウム報告



ピースデポ・明治学院大学国際平和研究所(PRIME)共催セミナー 「2010 NPT再検討会議を市民の立場から振り返る」

(10年6月11日・明治学院大学白金キャンパス)

左から：吉田 遼さん(NPO法人セイピースプロジェクト代表)、高原孝生理事(PRIME)、山田寿則さん(明治大学講師)、梅林宏道ピースデポ特別顧問。NGO・市民約50名が参加。



核兵器廃絶日本政策評議会(POCJAPAN) ラウンドテーブル協議会「核兵器禁止条約への道を考える」

(10年11月16日・明治学院大学白金キャンパス)

POCJAPAN(ピースデポの1プロジェクト。議長：梅林宏道)とPRIMEの共催。左から：梅林宏道、阿部信泰さん(軍縮・不拡散促進センター所長、元国連事務次長)、アラン・ウェアさん(MPI国際運営委員、IALANAコンサルタント)。ゲスト・招待者約50名が参加。

藤沢市制施行70周年記念事業「平和の輪をひろげる湘南・江の島会議」

～核兵器のない平和な世界を目指して～

- 主催：藤沢市・藤沢市平和の輪をひろげる実行委員会
- 後援：日本非核宣言自治体協議会、平和市長会議、神奈川市長会、神奈川県町村会
(10年11月27日、28日・かながわ女性センター)

日本非核宣言自治体協議会加盟自治体、神奈川県内の市町村長、NGO・市民など約600名が参加し、江の島で開催。ピースデポは湯浅代表がコーディネーター、小笠原理事がパネリストとして参加したほか、企画への助言、コーディネーションなどで協力。



NPT再検討会議サイドイベント 日韓NGOワークショップ 「北東アジア非核兵器地帯は『核兵器のない世界』を推進する」

- 共催：ピースデポ、ピースボート、セイピースプロジェクト(日本) 平和ネットワーク、参与連帯、ノーチラスARI(韓国)

(10年5月6日NY国連本部)

日本非核宣言自治体協議会の代表団を含め、日韓の国会議員、自治体、世界各地のNGO関係者など約90名が参加。



ピースデポ・PRIME共催セミナー 「核兵器禁止条約(NWC)へと動く世界」

—NOW WE CAN!

(10年9月24日・明治学院大学白金キャンパス)

ティルマン・ラフさん(核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN))代表が講演。NGO・市民約50名が参加。

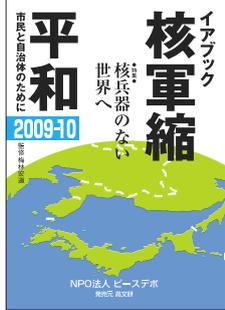
PRIME・日本バグウォッシュ会議・ピースデポ共催 セミナー「核兵器禁止条約(NWC)への道程」

(10年11月16日・明治学院大学白金キャンパス)

ジャンタ・ダナバラさん(バグウォッシュ会議議長、元国連事務次長) NGO・市民約30名が参加。



「平和の輪をひろげる湘南・江の島会議」レセプションにて。
左から：道原海子ピースデポ理事、田上長崎市長、小笠原理事、湯浅代表、スタッフの塚田晋一郎(10年11月27日・江の島ヨットハーバー)



イアブック「核軍縮・平和2009-10」—市民と自治体のために

「核兵器のない世界」に向けた、必読の一冊。核軍縮と平和をめぐる過去2年分の世界と日本の動きや、自治体、NGO、市民の取り組みを解かりやすいキーワードで解説しています。

10冊程度の預け売りや、お近くの図書館へのリクエストなどにもご協力を!

会員価格1500円/一般価格1800円(+送料)

監修: 梅林宏道/発行: NPO法人ピースデポ
発売元: 高文研/A5版、320頁

★ご注文・お問い合わせはピースデポまで!

- 特集: 「核兵器のない世界」へ
 - 48のキーワード: 核軍縮/ミサイル防衛/米軍・自衛隊/自治体とNGO ほか
 - 市民と自治体ができること □ 42の一次資料

映画『カウントダウンZERO』 2011年<春>全国公開!

『不都合な真実』のスタッフが、
再び人類に警告する
“今そこにある地球の危機”

監督: ルーシー・ウォーカー/製作: ローレンス・ベンダー
出演: ミハイル・ゴルバチョフ/ジミー・カーター/トニー・ブレア/元CIA職員 ほか
配給: パラマウントピクチャーズジャパン/上映時間: 1時間29分

※インターネットで、「ZEROキャンペーン」実施中!
（「核兵器廃絶=ZERO」への意思表示クリック）
あなたも、まずクリックしてください! <http://blog.to-zero.jp/cp/>



ボランティア体験記 —ピースデポの活動を様々な形で支えてくださっている学生ボランティアの体験記です—



ピースデポでの 経験を通しての学び

野村 彩夏 (明治学院大学法学部2年)

涙が止まらない。大学で、ピースデポの中村さんが講義をして下さったことです。お話を聞いて核兵器の恐ろしさに気付いたわたしは、自分にも出来ることはないだろうか、もっと勉強したい、そう思ってボランティアを始めました。NPOと関わるところかボランティア経験も無かったため、全てが初めての経験です。NPOの運営や核兵器・核実験モニターの発行まで身近で関わることが面白く、毎回事務所に伺うのが楽しみになっています。今日までに、講演会でのお手伝いも数回してきました。普段から核軍縮などの研究をされている方々のお話は、もちろん為になります。しかし、お邪魔させて頂いたその後の懇親会での会話は、これまで大人たちと話す機会があまり無かったせいか、講演などの真面目なお話とはまた違って、新鮮に感じました。

今年の夏は広島にも行く機会を頂きました。広島や長崎には学生のうちに必ず行きたいと思っていたので、非常に楽しみにしていました。しかしそれと同時に、行くからには真剣に多くのことを学ばなければ、と気を引き締めたのを覚えています。滞在期間中には原爆に関連する施設を幾つか回りましたが、特に印象に残っているものは放射能影響研究所です。今回の訪問では、公開日時を誤って行ったにも関わらず職員の方が歴史を丁寧に話してくださり、良い印象も受けました。

今回の訪問で研究所というとABCCの後ろ暗いイメージを抱きがちだったわたしは、新しい考えを持ちました。一方では、被爆者や広島市民から「研究、調査をするだけで治療をしない」との根強い批判があり、組織としての放影研をどう見るかは、総合的に判断せねばならないとも思います。歴史を見る時に必要な多くの視点を持つこと、慎重さの重要性などを知って、今後勉強するうえでいい経験になりました。また、ピースデポのボランティアとして行くことで、普段は機会のない講演会に出席できました。そこで講演を聞くのは勿論のこと、書籍販売のお手伝いを通して初めてお会いする方々、しかし同じ志を持って広島に集まっている方々と関われるのは非常に楽しく良い経験だったと思います。

8月6日は、平和記念式展や灯籠流しに参加しました。潘基文氏をはじめとする方々の演説を生で聞くことが出来たのは貴重でしたが、なにより集まったひとりの年齢層の広さに驚きました。戦争を経験されたであろう年配の方から、親に連れられてきた子供まで暑い中、真剣に式展に望んでいます。テレビには映らないけれど、こういったひとりひとりの気持ちが式展を開催し、そこから平和への願いになっているのだと思います。

20年間、わたしにとって核兵器とは教科書で習っただけの過去のものでした。いまは大学で国際政治を専攻しており、核の脅威から核軍縮の大切さを知りました。それと同時に平和構築の難しさも知っています。わたしの様な一学生が何かを成し遂げることは出来ませんが、だからこそ小さな力を役立てられたら、と考えています。広島で感じたことを忘れずに今後も勉強させてもらいながらボランティアをしていきたいと思っています。□

